

夢

九州大学有機化学基礎研究センター 教授 浜地 格

いきなり私事で恐縮だが、大学で教育／研究者の端くれとして職を得て十数年が経過した。学生さん達に大学院で授業をはじめただけでも10年以上となる。毎学期の大学院授業の最初には必ず言うのは「大学院では好きな授業を取ったらい。単位だけのためにここにいる人はさっさとラボに帰ってフラスコを覗きましょう」。また最後に必ず出題する問題は「科学・化学に対するあなたの夢はなんですか?」。これに対する答えは千差万別で読んでみると大変面白い。それぞれの学生さんのこれまでと、今が反映されている記述が多いからだ。極めて近視眼的に、今のテーマがうまく進むことです、と言った答えが最も多いが、人に役に立つ化学製品を作りたいとか、環境や地球に優しい化学技術を開発したい、といったどこかのコマーシャルのような答えもある。およそ、夢のない人生ほどつまらないものはない、と僕は思っているので、日々実験や研究に追われて多忙に見える（あるいは厳しい現実打ちひしがれて目的を見失って放浪しているように見える）大学院生諸君に、たまには自分の夢を思い出してもらいたいという意味を込めての僕からのプレゼントのつもりである。中には、自分が化学を志した（学科を選んだ）動機に遡って、夢を語る子もいたりする。夢はその人の個性やセンス、あるいは未来の豊かさをもっとも端的に現している。先人達の画期的な発見や発明は、それぞれの天才の夢（空想／構想力）みる能力に負うところが大きいことはよく言われることでもある。

さて、生命化学研究会の夢は何だろうか? 日々の日常に流され、多忙を極める中でちょっと立ち止まって思い出してみる時間も必要であろう。学生さん達答案のように、近視眼的な夢もあるし、大きな将来の展望もあったように思う。夢はできるだけ個性的で、それぞれオリジナルな方が素敵だ。他人の夢を自分のもののように語ることほど貧しいことはない。日本の生命化学の源流がこの研究会にあった、将来そう言われるような研究会ができないか。厳しくしがらみの多い現実をしなやかに乗り越えながら夢に向かって進んでいけると素晴らしい。我々の夢が、この分野の将来展望を決めるのかもしれないという自負を持って。

One is as big as one's dream.

以上、学生時代は授業を受けることが嫌いで、今は授業をすることが苦手な一人（注）からの言い訳でした。

（注）授業は苦手ですが、研究室での寺子屋教育は得意です。新生「浜地研」では大学院生を大募集中です。（はまち いたる：itarutcm@mbx.nc.kyushu-u.ac.jp）

FBC newsletter 巻頭言より（2002年6月）